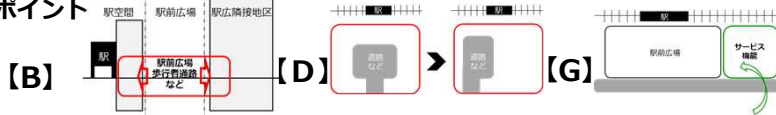


17 日向市駅

駅まち再構築
のポイント



● 駅まち再構築のポイント

課題 定住・交流人口の減少により駅まち空間の活力が低下

- ・ 郊外大型店の出店による中心市街地の既存大型店の撤退や、人口の郊外流出

解決策

[B] 駅前広場の交通機能を駅空間・駅広隣接地区に拡張

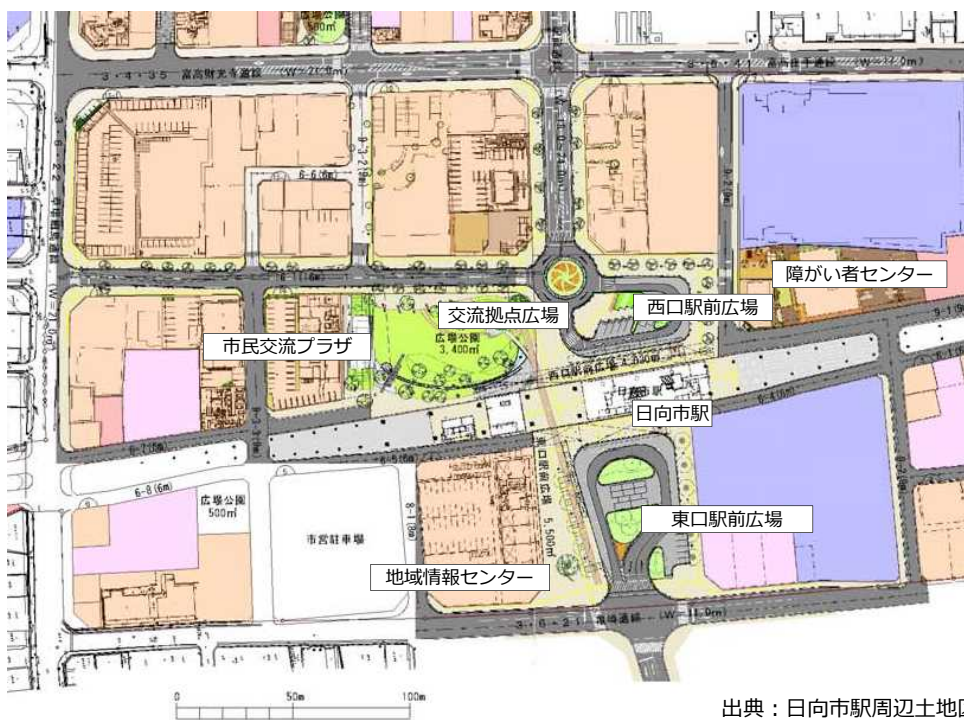
解決策

[D] 用地交換・道路配置変更により駅前空間を再編

解決策

[G] サービス機能を駅広隣接地区に集約

- ・ 連立事業と土地区画整理事業の施行により、周辺住民等の交流空間（広場空間・歩行空間）を創出
- ・ 市民交流プラザや地域情報センター等の地域拠点施設を設置

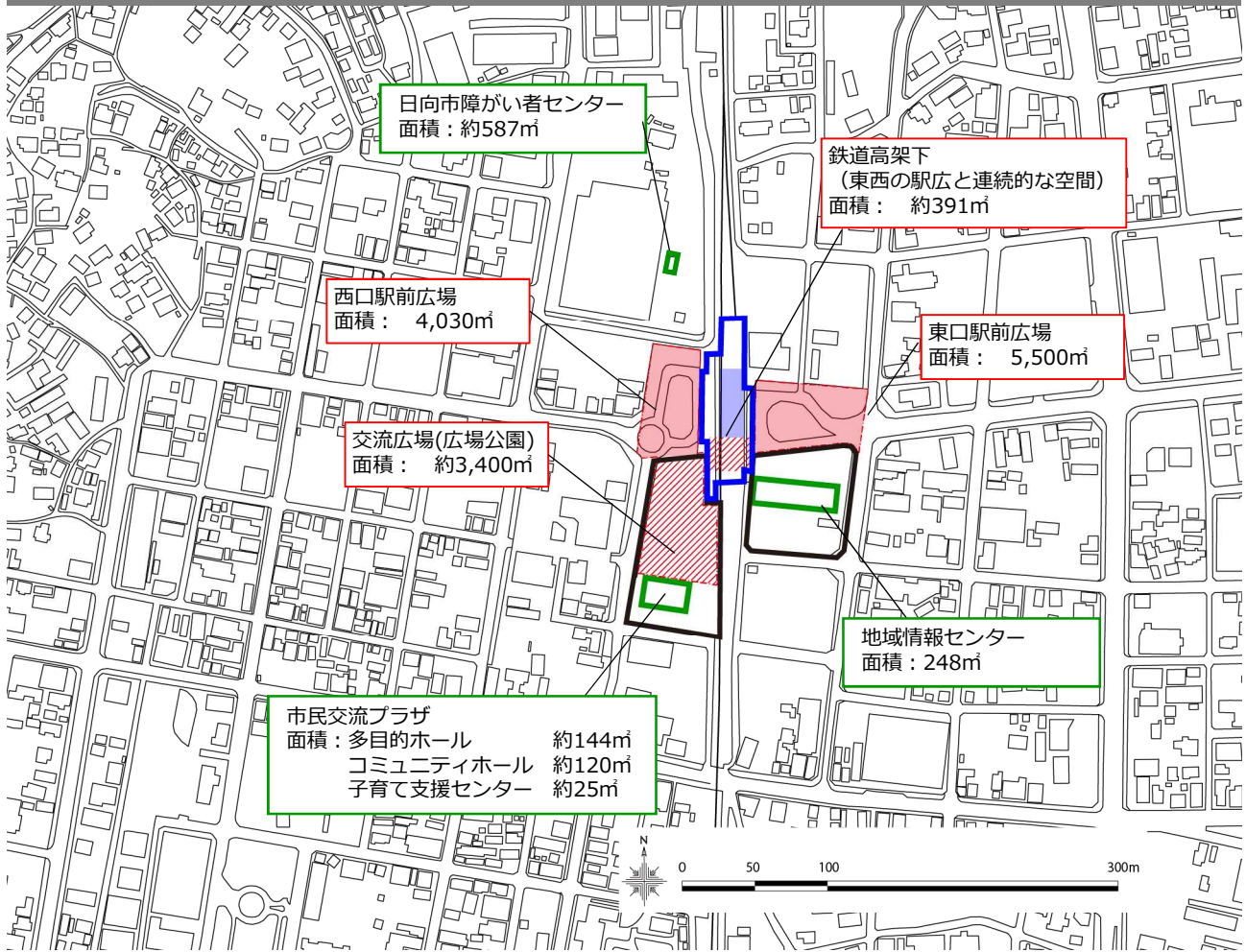


出典：日向市駅周辺土地区画整理事業 設計図

● 「空間の共有」と「機能の連携イメージ」

機能	空間	駅まち空間				周辺市街地
		駅空間		駅前空間		
		改札内	改札外	駅前広場	駅広隣接地区	
交通空間	乗降機能 交通結節機能	連続立体交差による駅改良		高架化された駅空間と駅広隣接地区を一体的に歩行者空間を創出		
環境空間	交流機能 防災機能	高架下通路	西口駅前広場			交流拠点広場
環境空間	都市環境 形成機能	トータルコーディネートされたデザインを实践				
環境空間	サービス機能	駅広隣接地区に地域拠点施設を設置		市民交流プラザ 地域情報センター		

● 駅周辺地図



出典：国土地理院 基盤地図情報

凡例 (✓がついているものが該当)

駅前空間		駅空間	
✓駅前広場等(都市計画決定区域)		✓駅施設(駅ビル含む)	
駅前広場等(都市計画決定なし)		✓改札内空間	
歩行者デッキ		駅前広場・駅広隣接地区へ拡張した範囲	
✓駅広隣接地区・駅空間へ拡張した範囲		周辺市街地	
✓駅広隣接地区(連携し整備した地区)		✓サービス機能・シンボルロード等	
		建物内に設置されたサービス機能	

● 基礎情報

所在地	宮崎県日向市	自治体人口	6.1万人 (2020年1月1日現在)
乗り入れ路線	1線 ・JR九州 日豊本線	乗降客数	2,798人/日 (乗車人数×2)

● 駅まち再構築の実現における工夫

■ 土地区画整理事業により歩行者等の交流のための空間を創出するとともに、駅広隣接地区に公益的施設（市民交流プラザ等）を整備することで駅まち空間の賑わいを創出した

- 街なかの賑わい、活力の再生を図るために、4つの施策を同時に進め、抜本的な都市構造の改変を行うことで中心市街地が整備された。
 - 連続立体交差事業…鉄道を高架化し分断された駅周辺地区の一体化
 - 土地区画整理 …都市基盤整備により交通利便性等を向上
 - 商業集積 …商業活性化を図る
 - 交流拠点施設整備…賑わいの空間を創出
- 連続立体交差事業を契機に、土地区画整理事業と併せて駅前広場を再編し、交流拠点広場(広場公園)や市民交流プラザ等の複数の拠点施設を整備した。その他のソフト事業も同時に行われている。
- まちづくりに住民のアイデンティティとなる地域の文化を取り込み、日向らしいまちづくりのため、ふるさとの「木を活かしたまちづくり」をエッセンスとしてデザインに取り組んだ。
- 高架化された駅は、地元木材を活用して明るく設計され、スパンを21mとばしたことで駅前広場との空間のつながりを生んでいる。
- 整備後は市民企画のイベント数が約1.9倍に増加し、集客数も約6.9倍となり、市民協働による持続的なまちづくり活動が活発化している。（2006→2019年 比較）



21mスパンをとばしたコンコース



交流広場における鼓祭りの様子

出典：日向市中心市街地活性化基本計画

事業の概要

土地区画整理事業	
整備内容	都市計画道路、駐車場 広場公園、駅前広場(東西2カ所)
整備主体	日向市
管理主体	日向市

市民交流プラザ事業	
整備内容	市民交流プラザ (商工会議所文化教養文化施設)
整備主体	日向商工会議所
管理主体	日向商工会議所

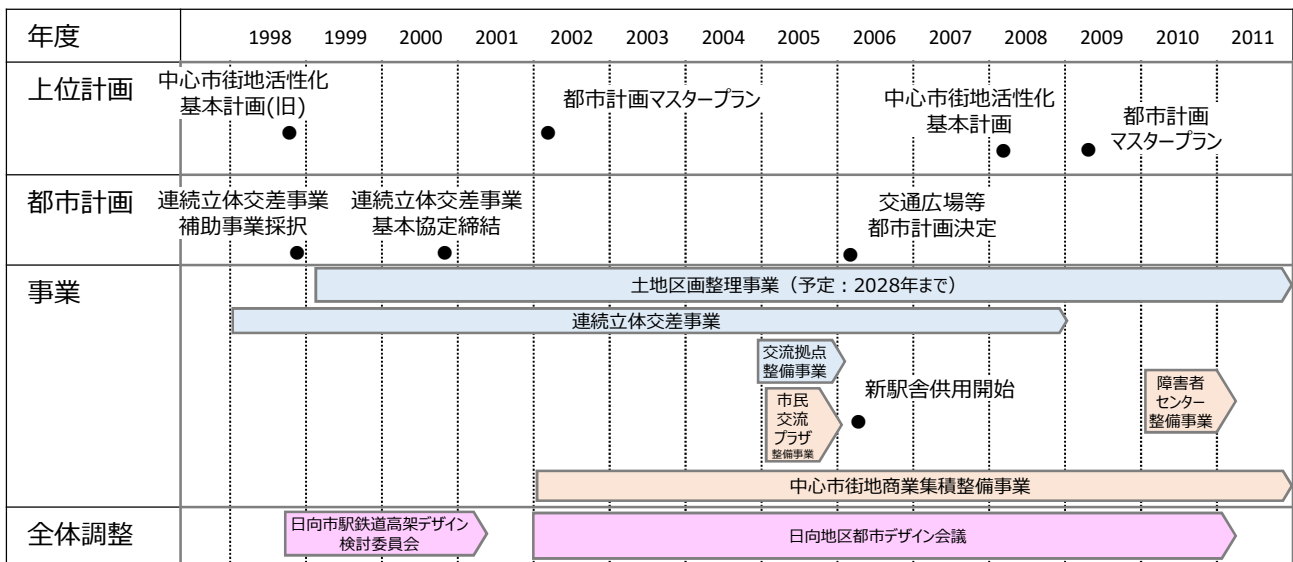
交流拠点整備事業	
整備内容	東口駅前広場、 バスキャノピー 東口キャノピー ファニチャー、植栽 地域情報センター 多目的トイレ 公共駐車場 交流拠点広場、野外ステージ 障がい者センター
整備主体	日向市
管理主体	日向市

連続立体交差事業	
整備内容	鉄道高架化
整備主体	宮崎県
管理主体	九州旅客鉄道株式会社

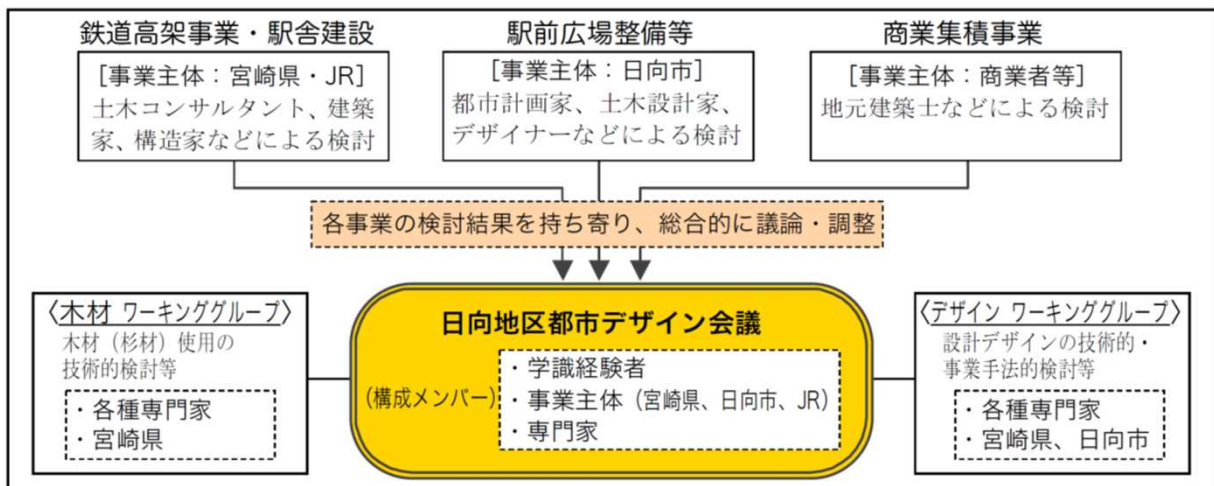
● 駅まち再構築の経緯

- 1990年代以降、中心市街地の衰退が顕著となり、都市構造改革が課題となったことから、日向市は1997年に「日向市駅周辺まちづくり委員会」を設置した。
- 「中心市街地法(1998年6月)」成立と共に、複数のまちづくり事業を総合的、同時一体的に進める“日向プロジェクト”がスタートし、官民協働の議論・合意形成の場として「日向市街なか魅力拠点整備検討委員会」が設置された。
- 学識経験者、事業者による協議・調整・協働の場として、「鉄道高架・駅舎デザイン検討委員会」が発足して基本構想がされた。
- 2001年からは「日向地区・都市デザイン会議」として、関係機関の相互協力体制のもとで事業化がすすめられた。
- 中心市街地整備については「産・学・民・官」協働のまちづくりを目指し、28ほどの委員会などが設置されて、市民が「主役」となってまちづくりについての検討を行った。
- 案内サインや歩車道境界の縁石等について、市民が実際に計画案を判断できるよう、実物模型を確認する等により合意形成を円滑化した。
- 継続的に地元の子どもたちが参加するイベントや学校での課外授業の取組みを行い、公共事業への関心を高める取組みを実施した。

経緯



体制



出典：国土交通省「良好な道路景観と賑わい創出のための事例集」

● 上位計画

■ 日向市都市計画マスタープラン

まちづくりのテーマを「豊かな地域資源を活かし、穏やかな人と時に包まれた持続可能なリラクスタウン日向」とし、取組み目標の一つとして「コンパクトで魅力あふれる交流拠点都市としての発展」を掲げている。

中心市街地の活性化については、都市機能の誘導や周辺の地域拠点を結ぶ公共交通の強化、都市機能のコンパクト化及び便利で快適な交通ネットワークの強化を図ることとしている。



■ 中心市街地活性化基本計画（第1期 2008年～ 第2期 2014年～ 第3期 2019年～）

以下の目標を継続して、市民協働による取組みを推進している。

目標①：人が集い、人がふれあう、活気に満ちた生活文化交流空間づくり

目標②：誰もが安心して暮らせる、便利でコンパクトなまちづくり

目標③：市民協働による持続可能なまちづくり

